

## 特集 生活の中の化学物質を問う

03

### 生活クラブの取り組みから考える 化学物質とのつき合い方

浮網 佳苗 (同志社女子大学 表象文化学部)



生活クラブ事業連合生活協同組合連合会  
企画部 SR 推進課 沼尾 哲也 氏

### はじめに

衣服のいやな臭いを防ぎ、汚れ落ちのよい洗剤、衣服をふんわりと仕上げ、「いい」香りのする柔軟剤、豊富な種類の化粧品、保存のきく多種多様な加工食品などは私たちの日常にありふれた生活必需品であるが、これらには様々な化学物質が含まれている。確かに化学物質によって私たちの生活の利便性は向上したかもしれない。しかし、昨今では、香害や化学物質過敏症、アレルギーなど、身近な化学物質が重大な健康被害を及ぼしたり、環境汚染の原因になったりすることも明らかになってきている。

では、私たちは日常に潜む化学物質とどう向き合っていけばいいのだろうか。この大きな疑問を考える手がかりを求めて、生活クラブ事業連合生活協同組合連合会（以下、生活クラブ）の企画部 SR 推進課の沼尾氏、三木氏、山本氏にお話を伺った。

生活クラブには、組合員と生産者が連携して、妥協しない徹底した品質管理に取り組んできた実績がある。生活クラブが掲げる「消費材<sup>1)</sup> 10 原則」の第 6 原則には、「有害化学物質を削減します」と明記されていることからわかるように、化学物質の取り扱いに対しても、様々な工夫を行ってきたのである。

なお、生活クラブ誕生の経緯や初期の取り組みについては、『くらしと協同』第 31 号(2019 年冬号)の特集に掲載された記事「消費者の視点からゲノム編集食品を考える一食の安全に対する生活クラブの取り組み」を参照されたい。

- 1) 消費材とは、\_ 取り扱う食品や生活用品を利潤追求が目的の「商品」ではなく、実際に使う人の立場にたった材であるという思いを込めて「消費材」と呼んでいる。
- 2) 「持続可能な生産と消費」推進制度とは、\_ 組合員と生産者が関わりながら、消費材の品質と生産管理レベルなどを向上させる取り組みである。

## 化学物質に対する基本的な考え方

——食品はもちろん、化粧品や洗剤、消臭剤など日用品に使用される化学物質には生活の利便性を向上させる側面があると思いますが、一方で、香害やアレルギー、環境汚染など問題も深刻になってきています。化学物質の利便性と健康や環境への影響について生活クラブではどのようにバランスを取っているのでしょうか。

【生活クラブ】疑わしきは使わずという予防原則に基づき、健康をおびやかす環境を破壊するおそれのある化学物質の使用を減らすとともに、環境への放出を削減することに努めています。生活クラブでは、「持続可能な生産と消費<sup>2)</sup>」推進制度を実践していて、持続可能性を阻害しないことが前提です。

以前、缶詰の内面塗装から環境ホルモン物質のビスフェノール A が溶け出ていることが問題になったことがありました。そ

6. 安全性の追求【化粧品】	
6-1 化粧品共通	不使用推奨物質の不使用
	香料の不使用
	合成界面活性剤の不使用
	アレルギーテストをクリアした製品
	合成防腐剤の使用
	16 物質の合成界面活性剤の使用
	禁止物質の不使用
	法定色素(タール系色素)の不使用
	パッチテストをクリアした製品(但し一部の製品を除く)
	香料の主要成分の開示
	製品(香料)の SDS 等による、有害性情報の確認
6-2 基礎化粧品の条件	基礎化粧品への合成着色料の不使用
	基礎化粧品へ 0.1%を超える合成香料の不使用
6-3 メーク化粧品の条件	メーク化粧品への合成着色料の使用
	メーク化粧品へ 0.2%を超える合成香料の不使用
6-4 頭髪化粧品の条件	頭髪化粧品への合成香料の使用
	頭髪化粧品への合成着色料の不使用
7. 安全性の追求【雑貨】	
7-1 仕上げ加工	金属や木製品、プラスチック、陶磁器にバリ取りなどの仕上げ加工の処理
7-2 防虫・抗菌加工	防虫剤・殺虫剤成分への天然抽出成分の使用(但し、毒劇物を除く)
	防虫・抗菌加工の不使用
	防虫剤・殺虫剤成分への、環境ホルモンと指摘される成分の不使用
	防虫・抗菌加工への、環境ホルモンと指摘される成分の不使用
	防虫・抗菌加工剤の LD50 が 2000mg/kg 以上
7-3 その他の化学物質	化学合成香料の不使用
	合成界面活性剤の不使用
	食品に接触する製品から溶出するホルマリンが、国の基準値の 1/10 以下
	合板やパーティクルボードへの F☆☆☆☆グレードの使用

「持続可能な生産と消費」推進制度のもとで作成された自主基準書には、有害化学物質の取り扱いが消費材の種類ごとに明記されている

の際、ある生協では、缶詰の供給を一切止めてしまうという事態になったのです。しかし、生活クラブでは缶詰の供給を続けながら、この問題を解決していこうとしました。生産者とともに製缶メーカーに働きかけて、それまで 30～60ppb 程度が溶け出ていたところを、10ppb に以下までするという業界の自主基準を作ってもらって低減していくやり方です。取引は続けながら交渉していくというのは、持続可能な方法だと思います。加えて、この事例は業界全体に影響を与えました。生活クラブの消費材<sup>1)</sup> だけについて対応してもらったということではなく、業界全体での取り組みにつながったのです。

化学物質の利便性とのバランスでいえば、利便性については犠牲にしているかもしれません。安全性をより重視しているということです。例えば、ペットボトルに入った調味料を販売すれば、持ち運びに便利ですが、その後の処理や、ペットボトルから溶け出す物質のことも考えて、できるだけガラスびんを使うことで化学物質を避けています。

また、食品添加物については、日本で認可されている 741 種類のうち、用途を限定し、98 種類だけを使えるようにしています。例えば、重合リン酸塩はプロセスチーズを作る際に不可欠且つプロセスチーズには不可欠なため、チーズに限って使用しますが、他の食品には使わないと決めています。

とりわけ生活用品においては、合成洗剤の取り扱いを 1970 年代に中止しせっけん の共同購入に取り組んできました。

農薬についても減農薬に取り組んでいます。

## 原点となった取り組み

——化学物質をなるべく使わずに消費材<sup>1)</sup> を生産するという、現在の生活クラブの姿勢は、当然、生活クラブの長い活動のなかで培われてきたものだと思いますが、その原点となった取り組みはどのようなものだったのでしょうか。

**【生活クラブ】** ウインナーの取り組みがまさに原点のひとつだと思います。1970 年代、業界の常識では、ウインナーには食品保存料が入っているため、簡単には腐らないものと考えられていました。そのため、保存料を使用していないウインナーであれば、当然常温ですぐ腐るわけです。生活クラブの物流が整備されていない頃、大半の消費材<sup>1)</sup> が常温で配送されていたため、2 月の実験取組みで冷蔵保存されていない配送トラックでウインナーも腐らせてしまうことがありました。にもかかわらず、完全無添加を求める組合員の声は止みません



完全無添加のウインナー  
(生活クラブホームページより <https://seikatsuclub.coop/news/detail.html?NTC=1000000469>)

でした。そこで、保存料を使用しないウイナーを安全な状態で保つための更なる実験を組合員と協力して実施し、冷蔵下では完全無添加でも製造から1週間保存可能であることが確認されました。

——生活クラブが組合員と手を携えて歩んできたことを象徴するような取り組みですね。合成洗剤を可能な限り使用しないという、せっけん運動もまさに、組合員の声のもとになって展開された、原点というべき運動だと思いますが、品質という点では、どうなのでしょう。界面活性剤を使わないことで、洗浄力や使い心地に違いはあるのでしょうか。

**【生活クラブ】** 例えば、洗濯せっけんの初期に販売されたものは溶けにくかったのですが、顆粒状にして中に空気が入るような成型方法（造粒方法）によって、使いやすく改良していきました。また、去年から洗濯用せっけんの3品目で原料の一部が海外産パーム油から国内産の廃食用からリサイクルした油に変わりました。

## 化学物質がもたらす弊害への対応

——現在、香害や化学物質過敏症、アレルギーなど、日常のなかで避けることの難しい化学物質が原因で苦しんでいる人々がいますが、生活クラブでは、こうした観点にも意識を向けて消費材<sup>1)</sup>の開発に活かしておられるのでしょうか。

**【生活クラブ】** 「持続可能な生産と消費<sup>2)</sup>」推進制度のもとで策定された自主基準には、生活用品について香料不使用を推奨する項目が複数あります。できるだけ合成香料を使用しないことや、香料を使用しても

中身を開示できるような香料を選ぶことを推奨しています。したがって、せっけんも香料は添加していますが、中身が開示できる香料や、香りの強過ぎないものを使用するようにしています。もちろん全てを天然でまかなえるわけではないですが、化粧品であれば、基剤臭といって原料の持っている独特の化学物質の臭いをマスキングするために、できるだけ天然香料を使用するようにしています。

——どうしても使う必要がある場合は、合成香料も使用するということですね。

**【生活クラブ】** そうですね。あとは無添加のものを選べるようにしています。無添加粒状せっけんのほうは香料を使っていません。ただ、香料を使用していない場合、例えば、衣替えして久しぶりに着ようとしたときの酸化臭を解決するにはひと手間（再度洗濯）が必要です。

——その意味では、化学物質の利便性とのバランスを考えてしまいますね。手間がかからない代わりに、化学物質が多く含まれているものを選ぶのか、少し手間をかけても可能な限り含まれていないものを選ぶのか。とても難しい問題だと思っています。組合員さんは合成洗剤を使わないことで生じる手間について、色々と工夫はされていると思いますが、どのように考えているんですか。

**【生活クラブ】** 納得され折り合いをつけて使っているのかなという印象です。会員生協の機関紙において、せっけんの使い方のコツが特集されることがありました。臭いが気になる場合は、エッセンシャルオイルや白いせっけんカスにはクエン酸を活用す

るとというのが、組合員のなかで語られています。

## 誰もが安心して使える 化粧品づくり

——化学物質の塊の代表格といえば、化粧品だと思えますが、生活クラブでは化粧品に使用される物質についてどのような工夫をされているのでしょうか。

**【生活クラブ】**生活クラブの基礎化粧品は、自社生産できている生産者3社と一緒に作っています。ハイム化粧品(株)、(株)ジャパンビューティープロダクツ、エコーレア(株)という会社です。エコーレアはせっけんの生産者の関連会社で、化粧品の販売部門です。ハイム化粧品は、昔から原料の全開示を行っています。生活クラブの基礎化粧品やメイク品も、成分の開示はもちろんのこと、配合割合まで生活クラブに対して開示してくれるんです。化粧品って、あまり見せたくないノウハウの部分があるので、そういった開示はしないのですが、できるだけ開示をしてくれるという姿勢にひかれて提携しています。

食品添加物の場合は、使っていい食品添加物リストを用いて、安全性をコントロールしていますが、化粧品の場合は、使ってはいけない原材料一覧に留まっているのが現状です。ハイム化粧品が当時使用していなかった原料と、過去に皮膚トラブルが発生したことで旧薬事法が禁止している原料をリスト化して、化粧品を開発しています。増え続けている原料の更新が追いついていないのですが、できるだけ安全なものを選ぶ心がけはしています。例えば、組合員から皮膚トラブルの相談があれば、どうい

ものを使っているか配合割合まで開示できますし、どこでどのように作られたのかトレースができますので、問題が生じたときの対策はしています。

## 生産者とともに歩む

——最近では営利企業でも、むやみやたらと化学物質を使用することは止めていこうとする動きはあると思いますが、化学物質の使用を削減する活動において、生活クラブとしての独自性はこういった点にあるか教えてください。

**【生活クラブ】**生活クラブの自主基準では人畜共通の抗菌剤は、耐性菌の問題がありますから、なるべく使わないようにしています。現在では、法律でも禁止されるようになりましたが、政府の基準が後から追いついてきたという感じですね。私たちが政府より先に取り組んでいたということですね。

——法的規制や政府からの指示を待つのではなく、問題があると判断されることには自ら率先して取り組んできたことは、生活クラブの実践の特徴ですね。

**【生活クラブ】**基本的に生活クラブは化学物質だから全部ダメだという立場ではないです。環境ホルモンへの対応の際も、一気に提携を停止するのではなく、生産者に働きかけて食べながら使いながら変えていくというのが基本的な立場です。

昔の言葉を使って、生活クラブは「素性」を確かめるという表現をしています。つまり、わかって食べるということです。化学物質を使っているからダメなのではなく、どういう化学物質が使われていて、何のた

めに使われているのか、それを代替することができるのか否かを考え、できなければ使わざるを得ないし、代替可能であれば使わないという結論に至ります。

東京電力の原発事故による放射能汚染が問題になったとき、もう一切食べたくないという人もいましたが、生活クラブではわかったうえで食べることをします。なぜなら、生産者も被害者ですから、一切食べなくなってしまうたら、生産者は続けていけなくなります。ただし、わかって食べるためには、放射能レベルをきちんと測定して、何ベクレル含まれているかをわかったうえで食べようという取り組みを組合員とともに実践してきました。それが生活クラブの化学物質に対する基本的な考え方と同じだと思います。

## 消費者としての責任

——自主基準の策定にあたって、色々な専門家の意見を聞いたり、専門知を根拠にしたりしているのでしょうか。

**【生活クラブ】** 特定の物質を使用しないと決める際には、色々と情報収集します。日本は化学物質に対する規制が緩いので、日本の情報はあまり参考にならないんですよ。むしろEUの状況が一番参考になります。ビスフェノールAについてはアメリカを含め世界的に規制されていますが、環境ホルモン系はEUの規制が厳格です。

3、40年以上前になりますが、三重大学の坂下栄先生は合成洗剤研究の第一人者で、生活クラブの検査室長になっていただきました。また、生活クラブの職員が講師として組合員に対して説明をする、せっけんに関する学習会もたくさん開かれています。

した。それぞれの会員生協では専門家を呼んで勉強会を実施していますね。

——現在の法律や制度にはまだまだ改善していく余地はありますが、消費者が力を合わせて声をあげていけばよい方向に変わっていく可能性はあるように思っています。生活クラブは、政府への提言や他の消費者団体との連携など社会的な働きかけはしているのでしょうか。

**【生活クラブ】** GM対策や放射能に反対する署名活動、政府への提言はしていますし、最近ではALPS処理水に対して意見を出しました。ただ、消費者が声をあげれば、物事が改善するかというと、それは難しい部分があるように感じます。1960、70年代の公害の場合、明らかに加害者と被害者がはっきりしていたので、消費者が声をあげやすかったし、それが社会の変化に大きな影響を与えたと思います。しかし、今は被害者と加害者がわかりにくくなっている面があります。例えば香害だと、合成香料をたくさん使った柔軟剤を使用している消費者が加害者にもなっていますよね。かつてほど社会の構図が単純ではなくなってきているので、消費者が声をあげようとしてもそれをまとめていくのがとても大変になってきているのかなとは思っています。

——最後に、より多くの消費者が自覚的になっていくために、協同組合はどのような役割を果たしていけるとお考えか教えてください。

**【生活クラブ】** 組合員は、転勤や引越してどんどん入れ替わっていくのですが、協同組合を通じて色々なことを学んでもらって、生協を離れても基本的な考え方やもの

の見方を持ちながら生活してもらえればと。生協は教育機能を持っていると思うんですよね。厳しい時代ですが、生協は誰一人取り残さないという理念をずっと掲げていて、それは今の SDGs にもつながっていることです。

また、自分たちでどういうものが欲しいのか、わかりやすい基準を作成して、消費者と生産者が一緒に力を合わせて取り組んでいければ、もっと様々なことが実現できるのではないかと考えています。

## おわりに

化学物質はあまりに私たちの生活に氾濫しすぎているため、それらをうまく避けながら生活することは不可能だと思われがちだ。しかし、このたびの取材から明らかになったことは、生活クラブは有害な化学物質を可能な限り避けながら、現実主義的で持続可能な仕方で化学物質とつき合ってきたことである。それは、消費者の組織でありながら、生産者とともに歩んできたこと、すなわち「誰一人取り残さない」という理念の実践である。これこそまぎれもなく生協の原点なのではないだろうか。

### <謝辞>

このたびの取材に快く応じてくださった、沼尾氏、三木氏、山本氏には心より御礼申し上げます。